

NO. 3	議席番号	氏 名	質問事項・要旨及び答弁者
	6	竹 田 努	
<p>1. 江差線三セク運営の利便性について</p> <p>平成28年3月から、北海道新幹線の開業と同時にJR江差線（木古内-五稜郭間）が三セクによる運営となります。三セク運営になることで、多くの町民からは今まで以上の利便性について求められています。</p> <p>昨年の12月定例会では、第5次木古内町振興計画を踏襲し、向こう10カ年を見据えた第6次木古内町振興計画が策定され、まちづくりの目標として「北の大地の福祉都市 きこない」を掲げたところであります。</p> <p>JR北海道から分離される三セク運営については、北海道と2市1町で構成される幹事会や協議会を得て、総合交通体系調査特別委員会にも報告がありました。その議論の中でも、高齢弱者の方でも利用可能な整備を訴え、階段を使用しないで乗り降り可能な1番ホームの活用方法について、再三にわたり主張してきましたが、協議会では1番ホームを使用するためには出発信号機の新設や連動装置の改修、自動進路制御装置の改修等については当町が負担しなければならないという説明でした。我が町にとっては、これ以上の財政負担増は厳しいものと思っておりましたが、その後の状況は大きく変わってきています。</p> <p>第11回総合交通体系調査特別委員会では、1番ホームが不要となるため施設撤去をするという報告がありました。この大きく変わった状況を踏まえ、階段を使わないで乗り降りできる方策を再考すべきと考えますが、町長の見解を伺います。</p>			町 長
<p>2. 平成26年度町政執行方針について</p> <p>平成26年度町政執行方針の高齢者福祉関連について伺います。</p> <p>高齢化率42%の我が町として、これまでも緊急通報システム事業をはじめ色々なサービスや事業を展開してきましたが、新年度予算の中では新たなソフト面やハード面として見えてこないのは何故なのでしょう。高齢化率42%を見据えた、横断的なサービスが必要ではないかと考えます。</p> <p>高齢になっても住み慣れた地域で安心して暮らし続けることが出来るためのサポートが求められてくると思います。例えば、高齢者支援員の配置によって安心して暮らし続けられる「北の大地の福祉都市 きこない」を目指すべきではないでしょうか。</p> <p>今後の要検討事項を含めた町長の見解を伺います。</p>			町 長

<p>3. 国保病院の経営について</p> <p>町長の執行方針の中で、国保病院の新年度の方向性について述べています。昨年質問の中で、夜間救急体制については困難であると答弁されましたが、年度途中で医師の賛同を得た中で夜間の受け入れを再開したことについては、管理者を中心に努力した賜と評価をしたいと思っています。</p> <p>ほかにも、乳ガン検診の充実やセカンドオピニオン外来の実施、病院広報誌の発行等々、新たな試みとして職員が一丸となって取り組んでいます。</p> <p>日本病院機能評価機構の審査結果や診療報酬の改定を踏まえて、新年度の目新しい病院の方向性を期待していたところではありますが、介護老人保健施設を含めマンモス化した今後の病院事業の運営について、病院事業管理者の見解を伺います。</p>	<p>病院事業 管理者</p>
---	---------------------